



ツククサ

ツククサは日本全国の低地に見られる、やや湿ったところが好きな一年草です。小さな藍色の花が人目を惹き花期が長いことや葉や茎に実用性があることで、万葉の古くから日本人に親しまれています。ツククサの名前の由来は、“朝露に濡れて咲く花”から名付けられたそうです。別名「月草」とも呼ばれていてあの青い花卉の色が衣服に付きやすいところから“着き草”ですが、万葉集では風流に「月草」と表しているそうです。花卉は大きな耳の様に見える青い花卉2枚と、下方の透明な花卉1枚で計3枚です。青い色素は衣服に付着しても日光などで退色し易く、水でも簡単に洗い流せるため、この色素を着物などの下絵を描くのに利用されたそうです。原産地は日本、東アジアで、虫や風がなくても結実する自家受粉のため繁殖力は旺盛で、世界中で広く分布しているそうです。雑草といえば雑草なのですがこの青い色が好きで自宅の庭では毎年少しだけ抜かずに花を咲かせています。(いとう)

郷土の小果樹・ハスカップ

かつては勇払原野などに自生し、アイヌの人々にも良く知られていた落葉低木です。5月下旬から6月上旬にかけて淡い黄色の花を咲かせ、7月下旬にはアイヌ語ハシカプ°(haskap)の由来になった濃い紫ないし黒紫色の小果実になります。一般家庭ではこれを塩漬けにしたり、ジャム、シロップに加工します。果実は日持ちしないので、業務用の場合はすぐに集荷して加工するか冷凍処理して保存します。道内の菓子メーカーではこれをゼリー、クッキー、羊羹などに利用し、北海道の特産品、お土産として販売しています。一般にハスカップはスイカズラ科スイカズラ属のクロノミウグイスカグラのことですが、広義では食用になるカエルレア種の総称です。ちなみに同じスイカズラ属のウグイスカグラは赤実で甘いのですが、ジャム等の加工用に使われることはないようです。現在では主に千歳市、厚真町、美唄市で広く栽培されています。また実生選抜等を繰り返して収量、味に優れた品種も作出されています。一般に日当たりと水はけ、水持ちが良いこと。収量を確保するためには、2本以上植え付け、開花期は風当たりが強くない場所を選びます。気になる病気としてうどん粉病、灰色カビ病。害虫としてアブラムシ、ハマキムシ、カイガラムシ、ナガチャコガネなどが発生することがあります。混み合った枝は早春までに間引き、風通しを良くしておきます。病虫害が発生したときは早めの防除を心がけて下さい。(かわはら)

北海道のバラシーズンの始まりです。

いわみざわバラ園ではハマナスも満開、園内は早くも薔薇の香りが漂い、welcome ガーデンから整形式ガーデン old ローズの小径、ハマナスの丘でのバラの競演が始まっています。市民の皆さまも是非咲き誇る美しいバラの花々の姿香りを楽しみにお出掛け下さい。岩見沢は市の花がバラです。今年はネズミ被害やカミキリムシ被害がとて多くて相談コーナーでの問い合わせが多いです。カミキリムシは温暖化と共に住みやすいのか？飛来して太くなったバラの株元に産卵して食い荒らし株が枯れこむ 1 番厄介な虫です。株元におがくず状のものがみつかる とすでに産卵されています。適時薬剤処理で幼虫を捕殺しましょう。詳しいことは、緑の相談コーナーにお問い合わせください。(たかはし)

ナスは一年草(・・・?)

ナスは夏から秋にかけて沢山の実をつけ、晩秋には実がつかなくなりやがて枯れてしまいますが、実は多年草なのです。ナスの育成温度は15度～35度で、寒くなってくると生育が止まり休眠状態となり、5度を下回ると枯れてしまいます。では越冬できないのかという点も出てきます。ネット上を騒がしている越冬したナスの話題がチョコチョコと目に入ります。これは、なにも珍しいことではなく、もともと多年草のナスなので、冬期間の寒さ対策をしてあげれば良いことで、秋口に鉢上げをして、剪定をして室内で5度～10度位の部屋で休眠させてやり、早春室内温度高めてやり15度以上育成温度にするとまた、花が咲き実を着けます。越冬させるメリットは早くナスを食べられることでしょうか。また、オクラも同様ですが、ピーマン・しし唐は多年草ではありませんが、育成温度を保っていれば花は咲き続けて収穫もあるようです。日本では一年草扱いでも本来は多年草の物がたくさんあります。一度調べてみるのも楽しみの一つですね。(ながやす)

帰化植物

帰化植物という言葉聞いたことがあるでしょうか? 帰化植物とは、本来の自生地から人の手によって他の地域に運ばれて、野生化した植物のことです。つまり道路脇や空き地に勝手に生えている植物、雑草と言われる植物の一部は園芸用や牧草としてなど人間が持ち込んだ帰化植物なのです。今年になって岩見沢市内の幹線道路にもさらに増えてきたフランスギク(俗にマーガレット)やカモガヤ、ヒメジョオンやハルジオンにコウリントンボボなど。他にも野原でも繁殖しているルピナスや、道路沿いのシロツメグサ、ムラサキツメクサ、シナガワハギ、ノラニンジンなど、北海道で生活している人なら名前は知らなくても見たことのある植物達です。そんな今の北海道の風景を作っている野の花の大半がいつのまにか帰化植物なのでした。綺麗だからとどんどん増やそうという単純な話しではありません。安易な考えで繁殖力の強い帰化植物だらけにすると、本来ひっそりとそこで暮らしていた自生種の数はいつのまにか減ってしまうのです。(きのした)

鹿沼土とは

先月号の知恵袋で赤玉土について記載しましたが、今月は鹿沼土についてご紹介いたします。

鹿沼土は土が付いていますが実は土でなく軽石で、赤玉土同様に火山からの吐出物が堆積したもので、ガーデニングでよく使われています。いずれも清潔な無機質な土で、肥料分など含まれていません。園芸用に販売されているものは粒状で、保水性と通気性がよいのも赤玉土と同じですが、赤玉土は崩れやすいのに対して鹿沼土は崩れにくく保水性が続き、水を含んだ時と乾燥したときとは土の色が変わるので、土の乾き具合がわかりやすいメリットがあります。

鹿沼土は赤玉土(pH6)よりもやや酸性でpHは4～5程度ですので、ツツジやサツキ、ブルーベリーのような酸性土を好む植物に適しています。

鹿沼土はもともと軽石なので、劣化せず長期間使えます。

チョット
いっぷく



ひとつき ひとバラ



文：曾根 浩太
(いわみざわ公園バラ園)



第百三回

シュラブローズ

ケルナー フローラ

Kölner Flora®

作出国：ドイツ

作出者：Tim Hermann Kordes

作出年：2014 年

ハーディネスゾーン：Z5

繰り返し咲き

交配：Geoff Hamilton × 名無しの実生

一番花も見頃を迎え、皆様楽しまれたでしょうか。今年はバラ園は 1 週間程度早く咲き、その分 7 月下旬まで花がもつかどうかちょっとひやひやしております。

今回はドイツ コルデス作出のケルナーフローラについてご説明いたします。花はピンク中輪の八重咲品種になります。名前の Kölner はケルンというドイツの都市の名前、Flora はいくつか意味がありますが、おそらくローマ神話に出てくる花の女神の名前だと思います。別名が Flora Colonia。Colonia はラテン語で古代ローマの植民地における最も高い地位の都市名前だそうです。ケルンはローマのコロニアとして建設された都市だったそうで、Kölner Flora でも Flora Colonia でもどちらも「ケルンの花の女神」という意味で捉えられる名前ということですね。

公式での樹高は 120 cm 程度のシュラブ扱いですが、日本のカタログには 2 ~ 3m という記載があるつるバラとして紹介されています。シュラブは元々半つる性のバラも多く、日本の気候では枝が伸びるということなのでしょう。ただ、それは道外の話。ドイツと気候の近い北海道で伸びるかと言われるとあまり伸びないのかもしれませんが。当園のケルナーフローラも 130 cm 程度の樹高となっています。フェンスに誘引もしているので公式通りではなく、伸び

てくれるのを祈るばかりです。本州ではつるバラ扱いが北海道では自立使いになる品種というのは多く、このバラも潔くそういったバラという認識したほうが楽になるかもしれませんね。本州基準のカタログの大きさを信用してはいけないってというのは北海道での常識としていただきたいなと思います。つるを植える場合にはその地域の既に植えている人に聞くのが一番ですね。

伸びるかどうかは別として、ハーディネスゾーンは Z5 ですので耐寒性に優れており、黒星等への耐病性も優れています。さすがのコルデスという感じで樹勢も強く、中輪とはいえシュラブですので剪定の際、あまり深く切り戻さなくても咲いてくれます。トゲも少なく扱いやすいバラですね。香りのコンクールで受賞歴もあり、とても香りよく、浅めのカップ咲で可愛いバラです。香りの良さはイングリッシュローズの Geoff Hamilton(ジェフハミルトン)が親ですので、そこからきているのかもしれませんがね。

Tim Hermann Kordes 氏はグレーフィンディアナやジャスミーナといった ADR 認証を受けており、当園でも良く生育しているバラの育種にも多数関わっている方です。本当に間違いなしの育種といった形です。北海道でも安心・安定の育種はとても助かりますね。

金子明人さんの クレマチスの 魅力と育て方

日時：2023年7月15日（土）

13:00～15:30

場所：室内公園「色彩館」研修室

受講料：2,500円

定員：30名（要事前申込・先着順）

《受講者限定》
金子先生セレクトの
クレマチス苗を
特別価格でご提供!

バラ園再整備から 10年を経て ～工藤敏博氏 講演会

日時：2023年7月23日（日）

10:00～12:00

場所：いわみざわ公園バラ園

（雨天時 室内公園「色彩館」研修室）

料金：無料

定員：40名（要事前申込・先着順）

お申込みはお電話で 0126-25-6111（室内公園「色彩館」）

今月の市民園芸講座のご案内

これは面白い!



●7月9日（日） 10:00～ バラ管理スタッフのローズツアー

料金：無料 定員：40名 講師：バラ園スタッフ

●7月22日（土） 10:00～12:00

ばらゼミ⑤ 夏越しと秋バラに向けての準備

料金：無料 定員：40名 講師：古舘 杏奈さん ローズグロウー

●8月6日（日） 13:00～15:00 ミニ盆栽を仕立てよう

料金：材料代 2,000円 定員：20名 講師：君島 信博さん 草つ月

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話：0126-25-6111 ホームページ：<https://iwamizawa-park.com/>

※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申し込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3～4日位前までに
お申し込みをお願いいたします。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。